

高ストレス者、長時間労働者、がんと就業の両立支援対象者に 必要な情報収集および、その有効活用の検討

主任研究者	福岡産業保健総合支援センター	所長	織田 進
共同研究者	福岡産業保健総合支援センター	産業保健相談員	藤代 一也
	福岡中央地域窓口	コーディネーター・登録保健師	中尾 由美
研究協力者	福岡産業保健総合支援センター・地域窓口		登録産業医

I. はじめに

平成 27 年度は、健診機関から健康診断結果を電子データで受け取り、産業医などが面接指導に活用する「健康管理システム」を作成した。

平成 29 年度は、治療を続けながら就労する労働者を支援する「両立支援サポートシステム」を試作した。近年、がん、種々の合併症を有する糖尿病、脳血管障害、難病などの慢性疾患を抱え就労する労働者の相談が増加している。事業主からの職場環境や労働条件、産業医の意見、主治医の診断書、診療内容および意見書などを一元管理でき、支援関係者全員で共有することができる。

平成 27 年度に作成した「健康管理システム」と連携し、高ストレス者や長時間労働者に対して効果的
面接指導が期待できる。

II. 対象と方法

1. 両立支援サポートシステムの作成について

「両立支援サポートシステム」はFileMaker Pro を用いて試作した。その運用の検討は平成 26 年度の調査研究で使用した機器などを利用した。

- 1) 使用端末器 iPad Air
- 2) 通信端末器 Huawei Mobile WiFi E5377s-32
- 3) iPad 用アプリ FileMaker Go

iPhone や iPad から FileMaker Server にアクセスし、一元管理された「両立支援サポートシステム」を 24 時間いつでも閲覧及び追加入力が可能である。

4) 4) USB メモリー3.0 I-O DATE Easy Disk

パスワード、ハードウェア暗号化機能、ウイルスチェック機能搭載。

2. ストレスチェックの実施及び分析について

- 1) 「ストレスチェック WEB 回答プログラム」は PHP スクリプト言語で作成された MySQL というデータベースと連携した Web サイトで、インターネットが接続できる端末すべてに対応している。
- 2) 使用端末器：インターネットが使用できる全ての端末から回答入力ができる。
- 3) レンタルサーバー：SSL で暗号化されたサーバー受検者に URL と個別に設定されたパスワードを知らせることで受検者は 24 時間いつでも好きな時間にストレスチェック回答ができる。ストレスチェックの回答は Web 入力を推奨しているが、アンケート用紙で回答する方法も提供した。アンケート用紙を回収後、厚生労働省のストレスチェックプログラムからエクスポートしたエクセルテンプレートに回答を入力し、そのプログラムにインポートして分析した。

III. 研究成果の活用予定

今回、試作した「両立支援サポートシステム」を認定産業医研修会等で紹介し、平成 30 年 4 月以降の両立支援事例について、本人の同意を得て同サポートシステムに入力する。今後、専門職が主に入力し、主治医、産業医などにも試験的に事例登録をお願いする。

学会発表予定:第 28 回日本産業衛生学会全国協議
会(平成 30 年 9 月 14 日~16 日、東京)

IV. 結果および考察

1. FileMaker Pro による両立支援サポートシステムの試作

「両立支援サポートシステム」は、両立支援だけでなく、医師などによる長時間労働者や高ストレス者の面談・面接指導にも利用できる。該当労働者を中心にその支援者の記録が時系列に記録されていく。支援者が入力できない場合、代行入力者の氏名を入力しておく。このシステムは、該当労働者の氏名、生年月日で同定する。労働者の仕事内容は、とくに有害作業があれば詳しく記載する。職場の異動、勤務先の変更などは履歴も残る。このシステムを使用することで、事業主、産業医、主治医などの支援関係者が該当労働者の医療情報を共有する。なお、支援関係者は事前に基本情報に加え、メールアドレスなどの追加情報も入力しておく。

- 1) 両立支援の 2 つの事例において「両立支援サポートシステム」に両立支援専門職などが入力し労働者の情報を共有可能にした。しかし、これら共有情報をインターネット上で公開することの同意は労働者本人から得られていない。
- 2) 両立支援サポートシステムには多くの個人情報が含まれる。そのためインターネットで情報を送受信するには、セキュリティを高度にする必要がある。それを実現するには費用が高くなり普及の障害となる。

2. 両立支援における保険診療について

産業医の意見により、該当労働者が就業しやすい治療法を主治医が選択した場合には 1,000 点が加算されるため、事例の記録を蓄積保存するシステムは重要になる。

3. 中小規模事業場に対するストレスチェック制度の導入支援

1) 中小規模事業場においてストレスチェック実施の際の問題点と解決策

①ストレスチェックの回答は紙ベースと Web 入力から選択できるようにした。6 つの事業場のうち、Web 入力を希望した事業場は 1 つだけであった。5 つの事業場が紙ベースでアンケートを実施する際、記入漏れと二重回答により分析までに時間を要した。次回から Web 入力での回答を希望する事業場が増えるよう期待している。

②ストレスチェック分析の送付方法として、パスワード、ハードウェア暗号化機能、およびウイルスチェック機能搭載の USB メモリーを使用した。特に問題はなかった。

③ある事業所では、集団分析による職場環境改善を実施することができた。女性 2 名の職場において上司と部下という関係であり、繁忙期のため部下の指導が不十分であった。ストレスチェック分析結果を考慮し、余裕のある部署から配置転換を実行し 3 名体制とした。ストレスチェック集団分析により他部署のストレス傾向も分かることが、部署間の異動を容易にしたと考えられる。

V. おわりに

今回、長時間労働者、高ストレス者の面接指導にも対応可能な治療と就労の「両立支援サポートシステム」を試作し、支援事例ごとに主治医、産業医、事業主などからの情報を経年的に管理できるようにした。病気をかかえる労働者の治療と就労の両立を円滑に支援できる。さらに、各地域の救急ネットワークを活用することによって、病気の急変等にもスムーズに対応できることを期待する。